

総務民生常任委員会 政務調査

視察日 7月25日

調査事項

(1)生活支援システムの構築
視察先 初山別村

高齢化比率が進む中で独居世帯等の高齢者見守り対応を含めた生活支援システムにITを利用しての留萌管内初山別村を視察した。

この村も道内他町村同様、過疎化が進み中心部を除き住宅が散在していることから災害対応など住民に対する緊急情報が喫緊の課題になっていた。そこでITを利用した情報システムの立ち上げを考え、平成23年に産学官連携による「初山別村暮らしを支えるネットワーク研究会」開催をきっかけに、村をモデルとした過疎・中山間での安価で実用的なシステムをauと共に構築した。システムの特徴は既存のシステムを活用しながらも全世帯が即時に情報を受け取れる手段として携帯電話を持っていない世帯には村が無償貸与した。村から送られてくる情報の主な内容は、

経済文教常任委員会 政務調査

視察日 7月27日

調査事項

(1)乾田直播^{かんてんちくばん}の技術開発
視察先 美唄市JAびばい

この乾田直播^{かんてんちくばん}技術は、従来東北地方の南部が限界とされていたが、技術の進歩により、北海道でも可能になった。

美唄市では、昭和63年に美唄市水稲直播研究会を結成し、9戸により7・2ヘクタールの面積からスタートした。その後、農業試験場の協力を得て収量、品質ともに安定してきており、今年では166ヘクタールまで拡大している。

この乾田直播^{かんてんちくばん}技術のメリツトとしては、農機具や資材の低減を図るとともに、春作業の労力が減少することにより経営面積の拡大にもつながる。

問題は、田起こしの際に土を細かくしなければならず、早く田んぼを乾かすことが最も重要であるという。土壌条件の違い、わが町では難しいと感じた。



成育した水稲

(2)図書館と学校図書室との連携

視察先 石狩市立図書館

学校図書室活性化事業とは平成18年度から図書館職員が学校に出向き、市内の学校図書室を使いやすく、より魅力的なものにするための取り組みである。

具体的には、子供たちを中心に図書の整理、本の修理、配置換えを手伝い、児童・生徒達が自ら作業をすることにより、図書室に親しみを持たせるような取り組みを目指している。

学校図書室の活性化は、読書人口の増加にもつながることから重要な取り組みであり、今後も図書館との連携が必要と感じた。

解説

乾田直播^{かんてんちくばん}とは

通常、稲作農家の春作業は、稲の苗を育てながら田を耕し、水を入れ、代かきを行ってから田植えをする。これに対し乾田直播^{かんてんちくばん}は、耕した後乾いた田んぼに直接種もみを播き、芽が出てから水田に水を入れる方式。

これによって、稲作農家の春作業が省力化され、経費の軽減にもつながる。



石狩市立図書館